【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成17年12月22日(2005.12.22)

【公表番号】特表2004-517686(P2004-517686A)
【公表日】平成16年6月17日(2004.6.17)
【年通号数】公開・登録公報2004-023
【出願番号】特願2002-558929(P2002-558929)
【国際特許分類第７版】
　Ａ６１Ｆ　 2/44
　Ａ６１Ｂ　17/58
【ＦＩ】
　Ａ６１Ｆ　 2/44
　Ａ６１Ｂ　17/58　　３１０

【手続補正書】
【提出日】平成17年2月17日(2005.2.17)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
　【請求項１】　人の脊椎骨の隣接する椎体の間に少なくとも椎間板空隙の高さを横切って少なくとも一部を挿入するための脊椎インプラントであって、
　椎間板空隙内部から隣接する椎体の一つずつにそれぞれ接触するようになされ、隣接する椎体のそれぞれの方へ向いて配置されるようになっている対向する上面および下面と、
　隣接する椎体の間で椎間板空隙の中に挿入するための先端部と、前記先端部に対向する後端部であって、上縁部と、下縁部と、人の脊椎骨の長手軸線に沿って前記上縁部から下縁部まで測定された最大高さを有する後端部とを備え、前記最大高さが前記椎間板空隙内で椎間板空隙に隣接する椎体間に適合するようになっており、前記後端部がそこを通過しそこにすぐ隣接する最大高さを超えて延びる骨ねじの少なくとも一部を受け入れ、
　前記骨ねじは、椎体内に配置される先端部と、前記脊椎インプラントと協働して係合し前記骨ネジが骨内にそれ以上進行することを防止するようになっている後端部とを有し、前記骨ねじの後端部は、そこにすぐに隣接し前記隣接する椎体の一つの少なくとも一部に重なっている、前記脊椎インプラントの後端部の最大高さを超えて延びている、脊椎インプラント。
　【請求項２】　人の脊椎骨の隣接する椎体の間に少なくとも椎間板空隙の高さを横切って少なくとも一部を挿入するための椎体間脊椎インプラントであって、
　椎間板空隙内部から隣接する椎体のそれぞれに接触するようになされ、隣接する椎体のそれぞれの方へ向いて配置されるようになっている対向する上面および下面と、
　隣接する椎体の間で椎間板空隙の中に挿入するための先端部と、
　前記先端部に対向し、外部表面と、隣接する椎体にそれぞれ向かって配向されるようになされた上縁部および下縁部を備える外周部を有する後端部とを備え、前記後端部が人の脊椎骨の長手軸線に沿って前記上縁部から下縁部まで測定された最大高さを有し、前記最大高さが前記椎間板空隙内で椎間板空隙に隣接する椎体間に適合するようになっている、前記後端部と、
　少なくとも２つの骨ねじ受け穴であって、前記外周部の上縁部に近接する前記骨ねじ受け穴の少なくとも１つが、骨ねじの一部が前記後端部の平面内で後端部の外周の上縁部を越えてはみ出すための一つのギャップをその中に有し、前記外周部の下縁部に近接する前

記骨ねじ受け穴の少なくとも別の１つが、別の骨ねじの一部が前記後端部の平面内で後端部の外周の下縁部を越えてはみ出すための一つのギャップをその中に有し、前記ギャップの各々は、各骨ねじの後端部を保持するのに十分である、椎体間脊椎インプラント。

【請求項３】　前記対向する上縁部及び下縁部は、各々、隣接する椎体からインプラントを介して隣接する椎体への骨の成長を許容するための少なくとも一つの開口を有する、請求項１または２に記載のインプラント。

【請求項４】　前記インプラントの後端部は湾曲している、請求項１～３のいずれか一つに記載のインプラント。

【請求項５】　前記インプラントが、外科的に修正された椎間板空隙の隣接する椎体間の距離に等しい高さを有する、請求項１～４のいずれか一つに記載のインプラント。

【請求項６】　前記インプラントの後端部が、インプラントの先端部と後端部を貫通する、前記インプラントの水平な正中長手平面に対して一定の角度でそこに受け入れられる骨ねじを配向するようになされている、請求項１～５のいずれか一つに記載のインプラント。

【請求項７】　前記後端部が前記上縁部に沿った一対のねじ受け穴と、前記下縁部に沿った一対のねじ受け穴とを有し、前記一対のねじ受け穴の一方が互いに近づいていく関係で骨ねじを位置決めするようになっている、請求項６に記載のインプラント。

【請求項８】　前記一対のねじ受け穴の他方が互いに末広がりになる関係で骨ねじを位置決めするようになっている、請求項７に記載のインプラント。

【請求項９】　前記インプラントに前記骨ねじを保持するための少なくとも１つのロックを更に有する、請求項１～８のいずれか一つに記載のインプラント。

【請求項１０】　少なくとも一つの第２の骨ねじを更に有し、前記インプラントに前記少なくとも２つの骨ねじを保持する少なくとも一つのロックを更に有する、請求項９に記載のインプラント。

【請求項１１】　融合促進物質を更に含む、請求項１～１０のいずれか一つに記載のインプラント。

【請求項１２】　前記融合促進物質は、骨、骨形態形成タンパク質、ヒドロキシアパタイト、骨を産生するための暗号遺伝子の少なくとも一つである、請求項１１に記載のインプラント。

【請求項１３】　前記インプラントは、その中に画定された内部表面と孔を有し、前記孔が骨成長促進材料を含有することができる、請求項１～１２のいずれか一つに記載のインプラント。

【請求項１４】　瘢痕形成を抑制するために化学物質と組合せてある、請求項１～１３のいずれか一つに記載のインプラント。

【請求項１５】　前記インプラントの前記後端部の上縁部及び下縁部の少なくとも一方が、骨ねじの少なくとも外径の一部が前記後端部の前記上縁部および下縁部の少なくとも一方を越えてはみ出すことができるように、その縁部中に少なくとも１つのギャップを有し、前記ギャップが骨ねじの外径よりも小さいように寸法決めされている、請求項１に記載のインプラント。

【請求項１６】　前記ねじ受け穴の少なくとも一つが、外表面を貫通し、前記ねじ受け穴の少なくとも１つの断面がＣ字形である、請求項２に記載のインプラント。